

第 51 回言語文化教育研究学会月例会

何のために「多読」実践を行うのか

高井かおりさん (明星大学)

みなさんは、「読書」や「本を読む」ということにどのようなイメージを持っていますか。私は、単純に本を読むことが好きです。本を読むことによって何かいいことがあると考えたことはありませんでしたが、本を読むことは楽しいことであり、私の身近にいる留学生のみなさんにも本を読むことを楽しんでほしいと思っていました。そんなとき、日本語「多読」を知り、私もやってみたいと思うようになりました。しかし、「多読」実践とは具体的にどのようにしたらいいのかわからず、まずは、『日本語教師のための多読授業入門』という本を読んでみました。

次に、「多読」実践を始めるには本の購入が必要だと考え、そのためには、大学に「多読」の良さをアピールする必要があるだろうと考えました。そして、良さをアピールできる何かを得られるだろうという期待と、上級レベルの学生にも向いているのかという当面の疑問を払しょくするために、NPO 多言語多読の研修会に参加しました。研修会でお話をお聞きし、学習者のレベルは関係がなさそうだと思えるようになりましたし、大学では本も購入してもらうことができ、今年の4月から「多読」実践を行えることになりました。

しかし、実際にいざ実践するとすると、他にも気になることが浮かんできました。私にとって本を読むことは、個人の楽しみであり、その時間、空間や楽しみは他者と共有するものではありません。それを敢えて授業という形で、教室に学生を集めて行うことにどのような意味があるのだろうか？楽しみは人それぞれであり、私の楽しみを学生に強要してしまうことにならないだろうか？また、授業で行うということは、「教育」が目的であり、私が考える「多読」実践の目的である「本を読むことを楽しむ」は「教育」なのだろうか？

本月例会では、これらの私の気になることを「座談会」という形で、参加者のみなさんと議論したいと思います。まず、NPO 多言語多読の提唱する「多読」とは何かについて紹介し、「多読」を共有したうえで、次の2点について話し合います。

1. 「多読」実践を言語教育として行う場合の長所、および短所は何か。
2. もし、あなたが「多読」実践を行うとしたら、どのような目的でどのように行うか

「多読」実践の経験の有無や、「多読」への興味の多少にかかわらず、いろいろな方々とともに「多読」と言語教育との関係をじっくり考えることができればと思っています。

『日本語教師のための多読授業入門』（アスク出版）

<https://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4872178130/tadokuorg-22/>

NPO 多言語多読「多読とは？」 <http://tadoku.org/learners/1-about>

- ・日時:2017年5月27日(土) 14:00-15:45
- ・会場:早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 512教室
- ・参加費:無料
- ・予約:不要(当日、直接会場にお越しください。)
- ・お問い合わせ:monthly@alce.jp(月例会委員会事務局)